



2012年11月  
関西熱化学株式会社 取締役社長

## 朝比栄一



「レスポンシブル・ケア(RC)報告書2012」発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

関西熱化学グループのRC活動は、今年で10周年を迎えました。

2001年10月にRC宣言を行い、環境・安全・品質を確保する自主活動を強化してきました。このRC宣言には、人の安全と健康を確保し、環境を保護することを目的として、日常の事業活動においてRC活動を実行することを謳っています。

社会に対して、「レスポンシブル(責任を負う)たれ」との運動は社員一人ひとりの意識と行動に根付き、確実に成果を挙げつつあると思います。

一方、私たちを取り巻く経営環境は年々厳しさを増し、大きく変貌を遂げていますが、なかでもCSR(企業の社会的責任)の重要性が高まっています。

関西熱化学グループは、これまでRC活動とコンプライアンスの二つの柱にリスク管理を加えてCSRの強化に取り組んでまいりました。今こそRC活動の真価が問われていると認識しています。

そこで、2009年には経営理念として、「人を財とし、自然を財とし、新たな価値を創造する」を策定し、RC活動の浸透に努めてきました。着実に成果を挙げつつあると自負しております。

現在、2013～2015年度の関西熱化学グループの中期経営計画の策定に取り組んでいます。RC活動については、これまでの実績を尊重しつつ、RC宣言時の精神を再認識し、成果にこだわった活動が重要と考えています。

今後とも、RC活動の実践によって、人にやさしい、地球にやさしい、そして進化する企業集団を目指していきます。

本レポートは、グループ全体の2011年度RC活動への取り組みについてご紹介しております。

ご高覧のほど宜しくお願い申し上げます。

### 関西熱化学グループ経営理念

## 「人を財とし、自然を財とし、 新たな価値を創造する」

### 「人を財とし」

関わる全ての「人」を財産として考え、行動します。

### 「自然を財とし」

「自然」を財産として考え、地球環境の保護、限りある資源の有効活用のため、行動します。

### 「新たな価値を創造する」

「人」「自然」の融合から、新たな価値創造へ向け、挑戦し続けます。

### 安全第一主義

## 「安全なくして経営なし」



### CONTENTS

ごあいさつ	1
経営理念	2
特集「RC活動10年間のあゆみ」	3
RC基本方針・RC推進体制	5
リスク管理の取組み	6
環境への取組み	7
安全への取組み	11
製品安全への取組み・RC活動トピックス	12
コンプライアンスへの取組み	13
情報セキュリティへの取組み	14
社会とのコミュニケーション	15
2011年度計画と実績・ マネジメントシステムへの取組み	16
グループ会社のRC活動への取組み	17
関西熱化学グループ会社概要	18

レスポンシブル・ケア(RC)とは、企業が自主的に「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」の取り組みを行い、その成果を公表して社会とのコミュニケーションを図る活動です。関西熱化学は、日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)に参加し、RC活動を展開しています。

### 対象期間 / 対象組織

この報告書は2012年度版として、2011年4月1日から2012年3月31日までの関西熱化学および関西熱化学グループのRC活動に関する活動実績に基づいて作成しました。

# 特集「RC活動10年間のあゆみ」

## RC活動=これまでの10年そして将来に向けて=

関西熱化学グループのRC活動は、2001年10月に経営トップの宣言で始まりました。翌2002年に関西熱化学グループ全体でキックオフし、従来から、個別に進めてきた環境面、安全面、品質面の各活動を「RC活動」という、経営トップのメッセージを大切にしながら強力な自主活動として再スタートさせました。

10年間で仕組み、体制、施策も充実してきました。仕組みとして、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001

を採用し、2007年には統合マネジメントシステムとしました。

この10年間に世の中は、CSR（企業の社会的責任）へ向けて大きく舵をとってきました。関西熱化学グループのRC活動も他方で進めていたコンプライアンス（企業倫理と法令遵守）への取り組みと融合するようになりました。

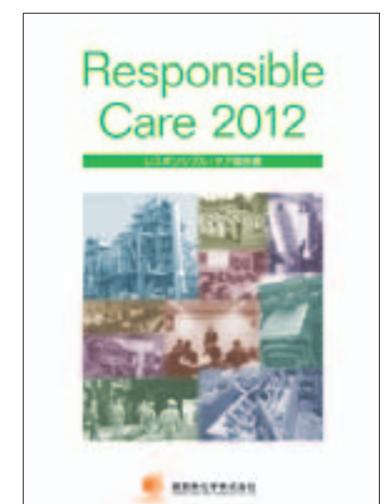
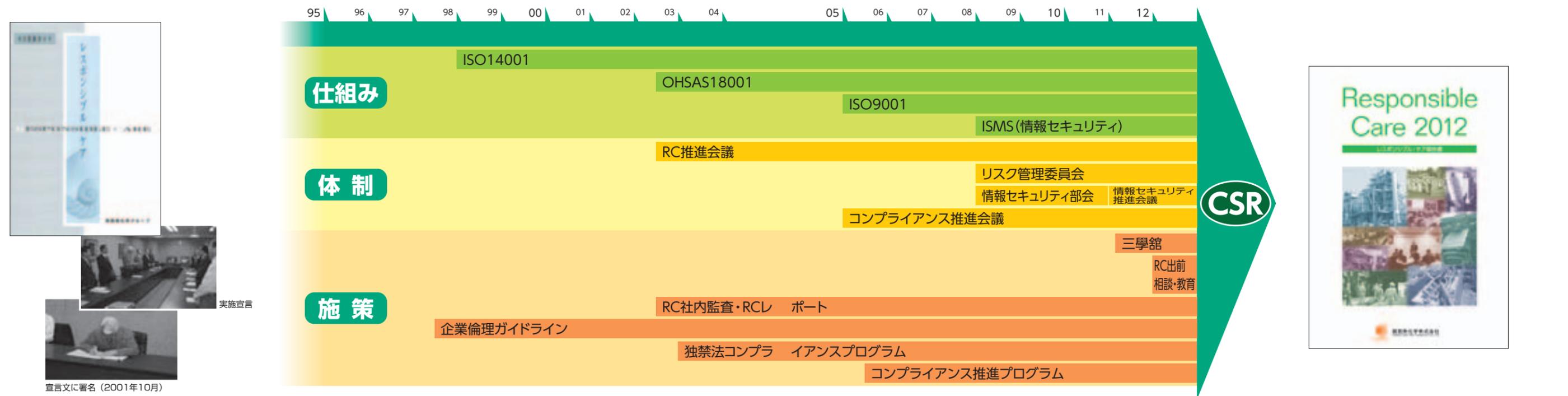
さらに2008年には情報セキュリティへの取り組みも加わっています。

また、リスク管理委員会が2008年に発足し、各分野の潜在リスクが顕在化しないようにリスク管理が行われています。

これまでRC活動は、いくつもの活動と連携を取りながら関西熱化学グループが将来を展望する際の基礎を作ってきました。この基礎を構成する要素の一つは

教育であり、人財育成です。その一環として、2011年に基礎的な学習を行う三學館を開校しました。また、10年間の活動経験を踏まえて、2012年度からは各部署のニーズの明確化とそれに合わせた教育支援として、「RC出前相談・教育」を実施しています。

これからも将来にわたり、この基盤を強化しつつ、その基盤の上で社会に対してレスポンスな関西熱化学グループとして事業活動を推進してまいります。



# RC基本方針・RC推進体制

## RC基本方針

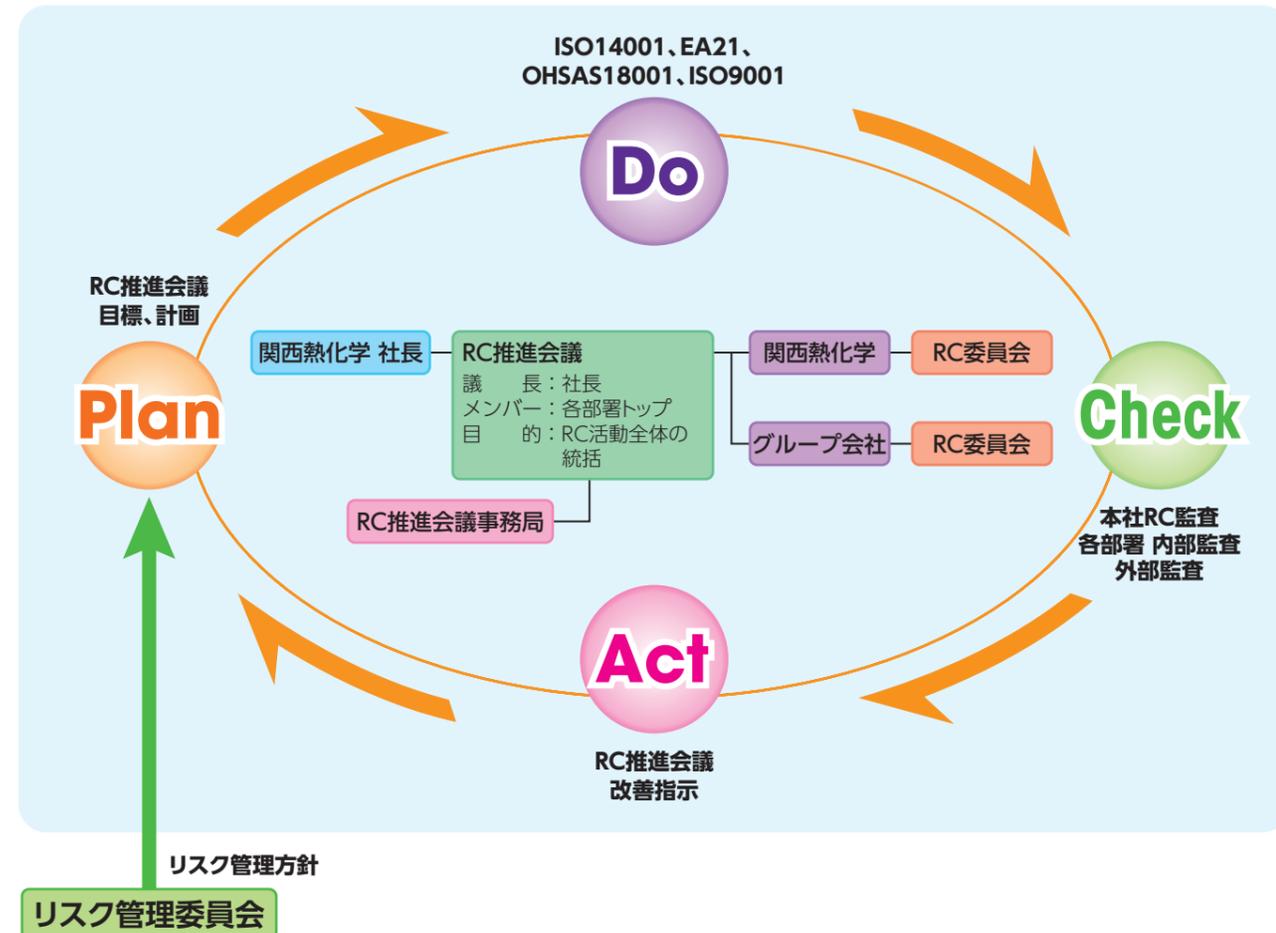
- ① 「環境・安全」の確保を、企業存立の必須要件として企業活動を行う。
- ② 無事故・無災害の操業を続けることにより、従業員と地域社会の安全を確保する。
- ③ 製品の開発から廃棄に至るまで、製品の全ライフサイクルにおいて、環境の保護および製品の安全に配慮する。
- ④ お客様が満足し、かつ、安心して使用できる製品・サービスを提供する。
- ⑤ 法令等の遵守はもとより、この基本方針の重要性を認識し、自らの責任を自覚した行動に努め、社会からの信頼向上を図る。

## RC推進体制

関西熱化学およびグループ会社の代表からなるRC推進会議が環境・安全・品質の推進に関する基本事項を決め、RC活動全体を統括します。RC推進会議では、前年度のRC活動の成果と、リスク管理方針に基づいて年次のRC目標およびRC計画が承認され、また計画

の全社的な進捗管理が行われます。このRC推進会議のもとで、各部署に組織されているRC委員会が具体的な活動を推進します。RC活動は主に、本社RC監査、内部監査および外部監査によってチェックされることでPDCAサイクルが確保されています。

### 推進体制とPDCAサイクル



# リスク管理の取組み

## リスク管理

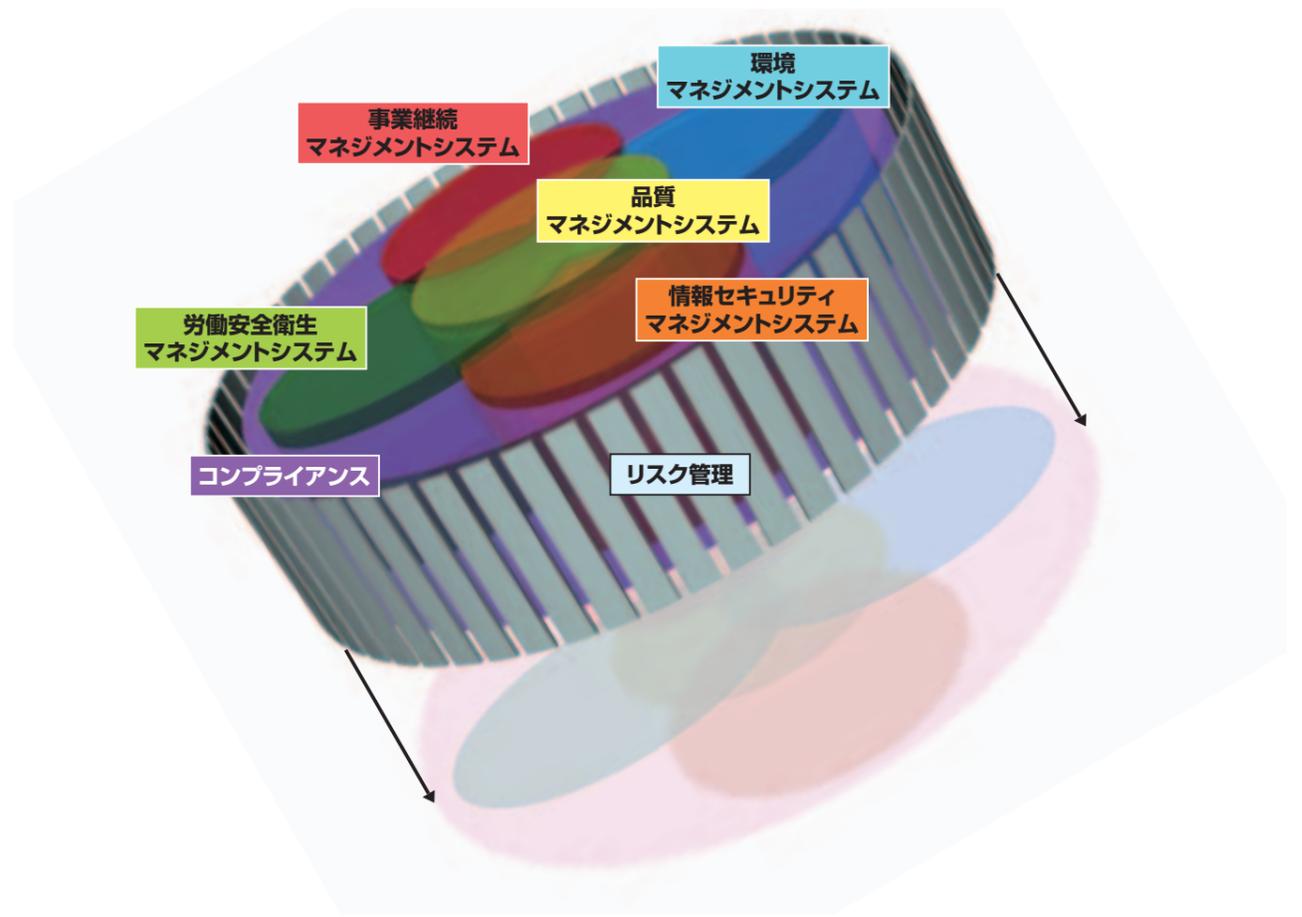
関西熱化学グループでは、リスク管理を経営の根幹を成すものと位置づけています。

事業のリスクは、自然災害や保安事故、新型感染症の大流行など多岐にわたります。各々の活動の仕組みやマネジメントシステムによって運営している業務や事業が、クライシス(非常事態)によって瓦解しな

いように、リスク管理という枠組みにより保護しています。

各部署において事業リスクの洗い出し、定量化、評価、対応策の策定を行い、特に重大なリスクについては、リスク管理委員会にて対策実行状況の管理を行っています。

### 関西熱化学グループ リスク管理の考え方

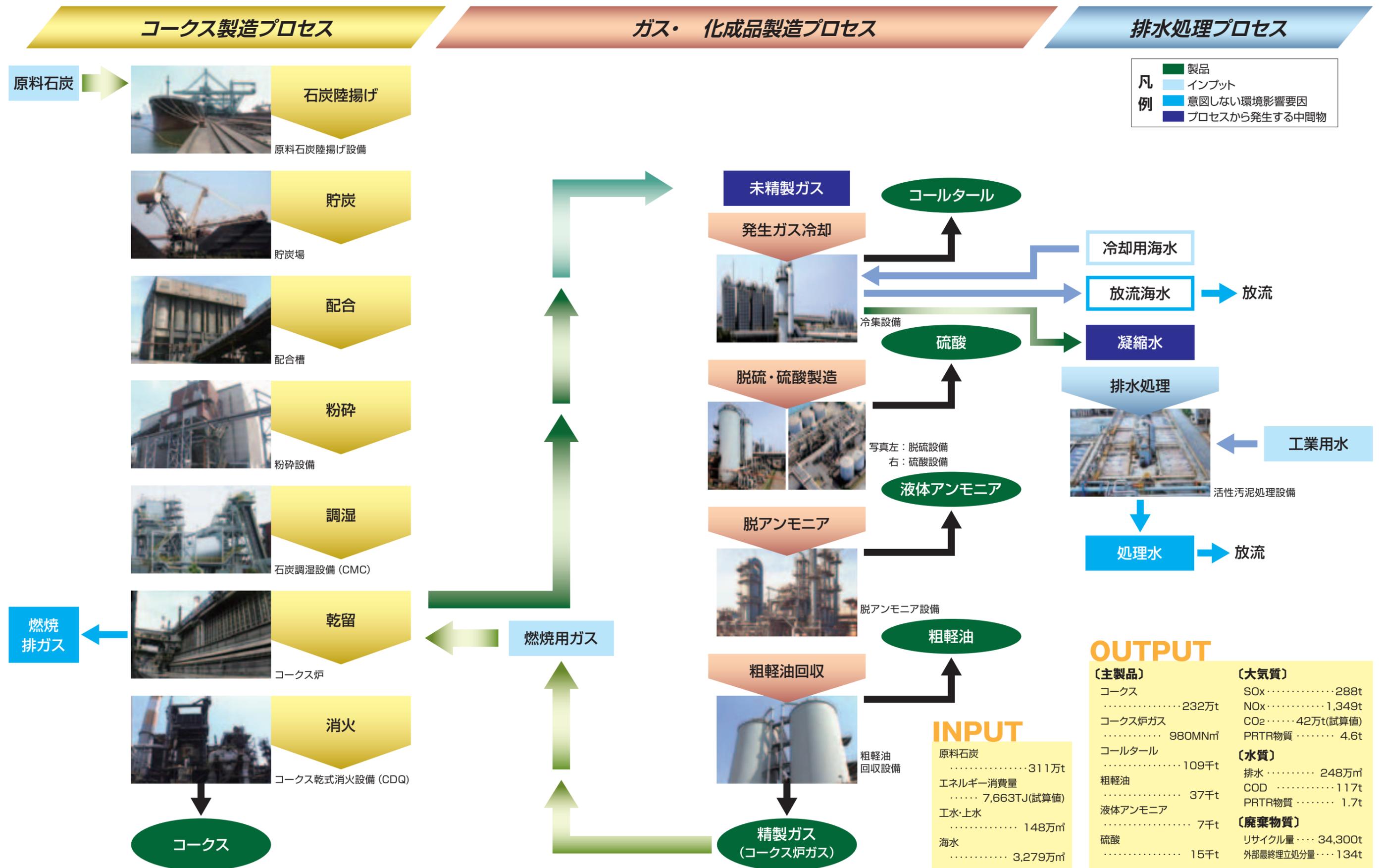


## 事業継続計画 (BCP)

関西熱化学グループでは2006年より地震、津波などの大規模災害の発生および、新型インフルエンザの大流行に対して適切な初動対応を行うことで事業活動への影響を最小限に留めるための事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan) の構築と運用に努めています。

2009年のA/H1N1型インフルエンザ流行時にもBCPを発動させ、適切に運用することで、従業員の罹患や社内での感染拡大を最小限に留めることができました。また、地震・津波対応BCPについては、内閣府の「南海トラフ巨大地震モデル検討会」による想定に基づいて、従業員の安全を確保するための仕組みを構築しています。

# 環境への取組み プロセスフローと環境への影響 (加古川工場)



# 環境への取組み

## 地球温暖化の防止 CO<sub>2</sub>排出量は1990年度比で15%削減

2011年度は、コークス炉装入原単位および蒸気回収量の低下、また、環境対策設備の新たな稼働によって、2010年度比でエネルギー原単位が4.5%、CO<sub>2</sub>排出量が5%増加しましたが、1990年度比ではエネルギー

原単位が10%、エネルギー使用量では13%、CO<sub>2</sub>排出量が15%削減されています。

今後も、省エネ技術や設備の導入検討などによるCO<sub>2</sub>削減を推進してまいります。

## 粉じん飛散の防止 粉じん飛散防止の各種対策を継続実施中

2008年度以降、集じん設備の増強および堆積粉の除去、清掃などの強化を実施していますが、2011年度はさらにコークス炉上清掃用集じん機の設置と清

掃の強化、貯炭山への散水強化により粉じん飛散防止の強化を実施しています。今後も、粉じん飛散防止に積極的に取り組みます。

## 大気汚染防止 SO<sub>x</sub>排出量が2010年度比38%増加

原料炭事情および脱硫設備関連の補修工事を実施したことで、SO<sub>x</sub>排出量が2010年度比38%増加し

ました。NO<sub>x</sub>排出量はほぼ横ばいです。

## 水質汚濁防止 COD負荷量が2010年度比18%減少

COD負荷量は、活性炭吸着設備が2011年度に稼働を開始したことおよび活性汚泥設備の運転管理を強化したことにより18%減少しました。排水量は排水

処理設備の各ピットにおける発泡対策として消泡水を増やしたため、2010年度より13%増加しました。

## 化学物質の適正管理 (PRTR) 大気排出量削減目標を継続達成

自主管理計画として、2007年度を基準年とし、2011年度までに大気排出量（ベンゼン、トルエン、キシレン、スチレン）を30%削減することを目標に、

製造工程管理方法の見直し、回収設備の設置などに取り組んできました。その結果2010年度には目標を前倒して達成し、2011年度には34%を削減しました。

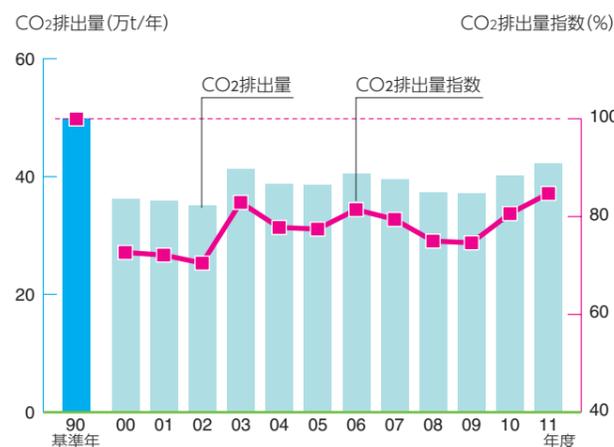
## 資源循環対策への取組み (廃棄物の削減)

加古川工場では2009年度以降、継続してゼロエミッション（産業廃棄物を99%以上リサイクル）を達成しています。また、マニフェスト（産業廃棄物管理表）を交付して適正に管理するとともに、最終埋立処分場に出向き適正に処分されていることを確認してい

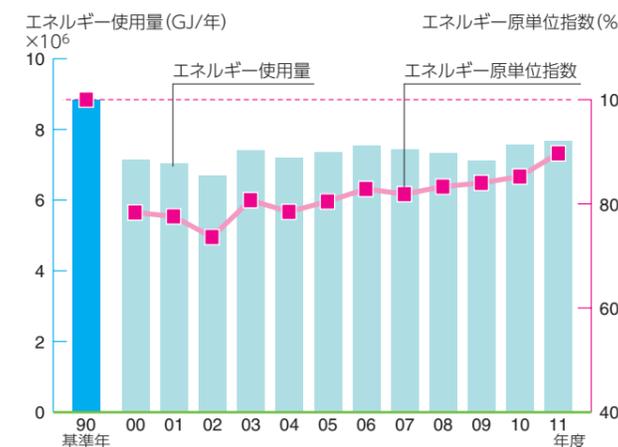
ます。ゼロエミッション継続中

全事業所のオフィスでは、OA用紙使用量の削減、各種紙類の回収リサイクルボックスの活用など、紙資源の削減やリサイクルを促進するエコ活動を継続しています。

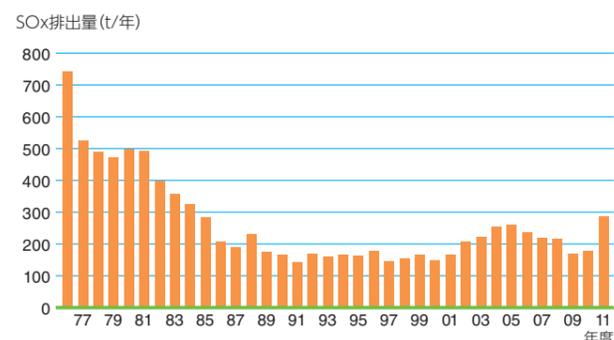
CO<sub>2</sub>排出量およびCO<sub>2</sub>排出量指数推移 (加古川工場 試算値)



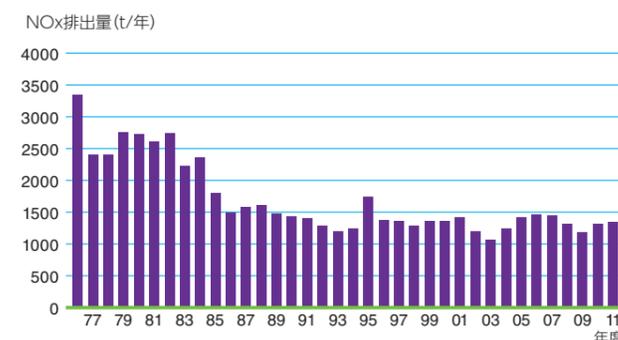
エネルギー使用量およびエネルギー原単位指数推移 (加古川工場 試算値)



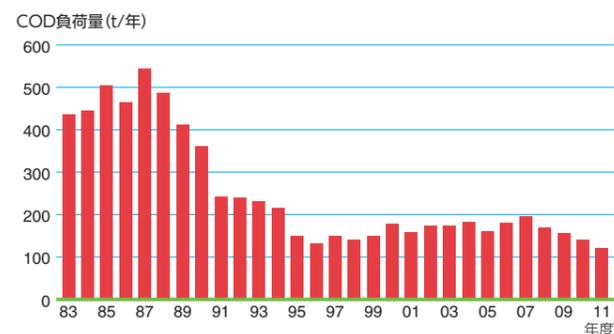
SO<sub>x</sub>排出量推移 (全社)



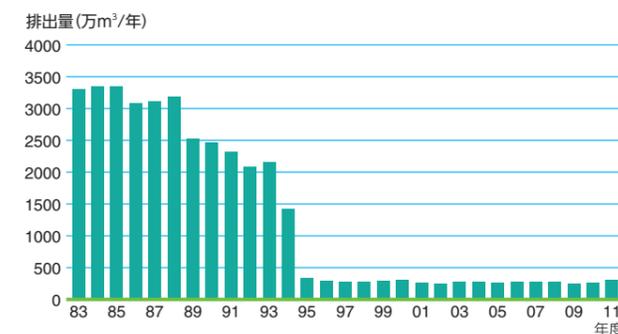
NO<sub>x</sub>排出量推移 (全社)



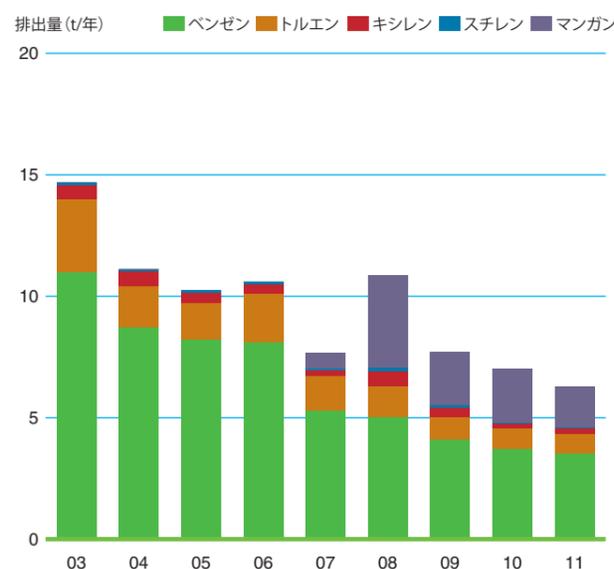
COD排出量推移 (全社)



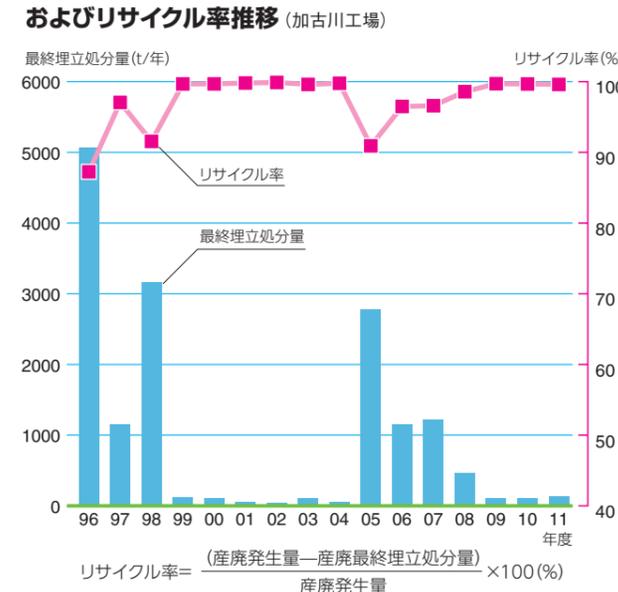
排水量推移 (全社)



PRTR法対象物質排出量推移 (加古川工場)



産業廃棄物最終埋立処分量



# 安全への取組み

加古川工場では、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）に基づいて職場の潜在的な危険や有害な要因を見つけ出し、設備改善等でそれらを除去・低減することにより、保安事故および労働災害の未然防止を図っています。

## 保安防災

保安事故ゼロを目指し、さまざまな自主保安活動を行っています。

### ●保安事故防止への取組み

定期的に「RCパトロール」や「RC監査」を実施し、設備の安全状況の確認や問題点を摘出して、再発防止や予防措置ならびに防災体制の整備充実に努め、保安事故防止を図っています。

### ●保安防災訓練の実施

法定により実施すべき高圧ガス設備の防災訓練をはじめとして、工場総合防災訓練、隣接する神鋼社加古川製鉄所との合同防災訓練、東播磨地域特別防災区域加古川播磨協議会等の連携による防災訓練などの保安防災訓練を実施しています。

### ●保安事故実績

2009年度から保安事故ゼロを継続しています。引き続き保安事故ゼロ継続を目指し、発生防止に努めてまいります。

## 労働安全衛生

全従業員が労働安全衛生活動に参加し、労働安全衛生レベルの向上に取り組み、労働災害ゼロを目指して活動しています。

### ●労働災害発生の防止への取組み

2011年度は安全基本研修実施を重点施策とし、新入社員および入社5年未満の若年層やグループ会社の監督者への研修を実施しました。

また、安全の基本心得として「安全基本10則」の小冊子を作成し、安全ミーティングなどに活用しています。

### ●健康づくり支援

関西熱化学グループでは「こころとからだ」の健康管理の充実を目指した施策を積極的に推進しています。

メンタル面では、社外専門家によるケア体制の確立、管理監督者への研修やセルフケア研修の実施、また情報端末を利用したストレスチェックを行っています。

さらに元気さプロジェクトの活動の一環として健康診断の際に保健師と全員が面談を行うなどメンタル不全

### ●労働災害実績

2011年度は、前年度に続き、休業災害を2件発生させました。既に対策は講じていますが、再度、安全の基



高圧ガス設備防災訓練 加古川播磨協議会 総合防災訓練

休業度数率推移 (100万時間当たりの休業者数)



新入社員 圧力発信機取扱い研修 グループ会社 安全研修



メンタルヘルスケア研修 衛生講演会 安全基本10則

の予防、早期発見、早期対応に努めています。

また、生活習慣病予防改善のため「特定健診・特定保健指導」（メタボ健診）を実施するとともに、衛生講演会の開催などにより健康づくりを支援しています。

本に立ち返り、労働災害ゼロに向けて努めてまいります。

# 製品安全への取組み・RC活動トピックス

## 化学品管理活動 (GPS / JIPS)

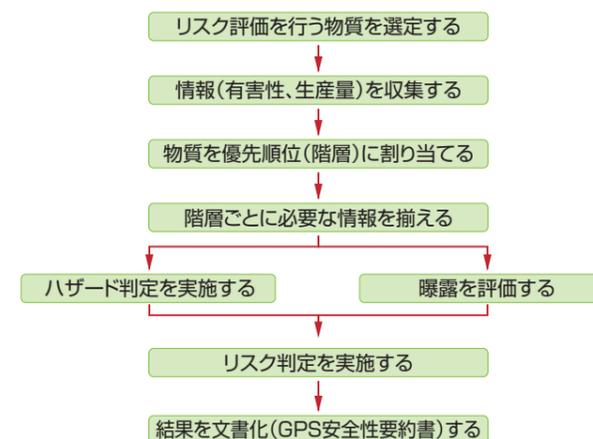
GPS (Global Product Strategy) 活動とは、ICCA (国際化学工業協会協議会) による、世界的規模で化学品管理を強化する活動です。科学的手法に基づく化学物質のリスク評価およびステークホルダーへの情報公開を行うことで、製品の開発から廃棄に至る全ライフサイクルにわたり、環境・ヒト健康・安全を向上させることを目的としています。

JIPS (Japan Initiative of Product Stewardship)

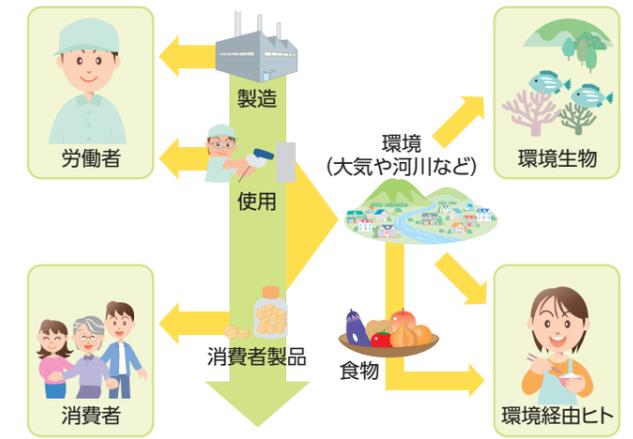
活動とは、日本で GPS を具現化するために、日本化学工業協会が推進している化学品管理の取り組みで、化学品を製造・輸入する企業が、化学品のリスクを最小限にするため、加工・組立・販売業者等の協力のもとでリスク評価を行い、情報を公開してサプライチェーン全体で化学品の適正な管理を行うものです。

関西熱化学も自社製品のリスク評価や情報公開に取り組んでいます。

### GPS / JIPS リスク評価の手順



### GPS / JIPS 暴露評価の対象



## RC活動トピックス

### ●第6回関西熱化学グループRC大会開催

関西熱化学グループ各社の安全・環境・品質に関する活動成果を共有・水平展開し、グループとしてのRC活動のレベルとモチベーションを向上させることを目的として、第6回関西熱化学グループRC大会を2011年11月2日に開催しました。



第6回関西熱化学グループRC大会

### ●RCパトロール

7月の全国労働安全衛生週間に合わせて加古川、尼崎、中島の各地区にて、RC推進会議議長（関西熱化学社長）によるRCパトロールが行われました。RC活動は経営の根幹であり、安全は全てに優先するという社長の強い思いが、各現場の作業員への激励の言葉とともに伝えられました。



RCパトロール

# コンプライアンスへの取組み

関西熱化学グループでは、「コンプライアンス」を単なる法令の遵守ではなく、「法令はもとより、企業倫理を含めた社会的ルールを遵守」することとして、より広い意味でとらえています。

## コンプライアンス推進プログラム

関西熱化学グループは、1.自覚・責任、2.公正・公平・誠実、3.遵法精神、4.節度、5.透明性・開放性 を「関西熱化学グループ企業倫理憲章」として掲げ、常に高い倫理観と社会的良識をもって行動し、社会から信頼される企業グループを目指します。

「関西熱化学グループ・コンプライアンス行動規範」「相談・報告制度」など、コンプライアンス推進プログラムを整備し、適切な運用・管理に努めています。

## コンプライアンス推進体制

関西熱化学取締役会にてコンプライアンス統括責任者を任命し、コンプライアンス統括責任者を議長とするコンプライアンス推進会議を設置しています。

推進チームはコンプライアンス推進会議の事務局となるほか、コンプライアンスの啓発およびホットライン

### 関西熱化学グループのコンプライアンス推進プログラム

基本規程	関西熱化学グループ企業倫理憲章
	関西熱化学グループコンプライアンス行動規範
	関西熱化学グループコンプライアンス推進規程
推進体制	コンプライアンス統括責任者(関西熱化学社長)
	関西熱化学コンプライアンス推進会議
	推進チーム・推進責任者・推進リーダー
啓発教育プログラム	コンプライアンス研修ほか
監査・モニタリング	コンプライアンス監査ほか
相談・報告制度	社内相談制度、ホットライン・システム
違反への対応	原因究明、再発防止、情報公開

コンプライアンス推進会議による定期点検

の運用を行うとともに、全社のコンプライアンスに関する相談の窓口となっています。

また、各部署長およびグループ会社社長を部門推進責任者とし、各部門に部門推進リーダーを置き、日々のコンプライアンスの推進・徹底に取り組んでいます。

## コンプライアンス研修

コンプライアンス推進の基礎となるのは、一人ひとりの意識です。関西熱化学グループでは2011年9～10月にコンプライアンス自主研修、11～翌年1月にはコンプライアンス意識調査、1～2月には管理職を対象にしたコンプライアンス研修を実施しました。

コンプライアンス意識調査は6回目になりますが、そ

の結果をコンプライアンス推進チームが各部署にフィードバックし、コンプライアンス推進に活かすようにしています。

今後とも、コンプライアンス意識を常に高いレベルに保つ取り組みを継続し、コンプライアンスを基盤とした事業活動を継続してまいります。

## 人権への取組み

関西熱化学グループでは、「人権啓発推進委員会」を設置し、「人権啓発を通じて、人権問題を正しく理解し、差別を見抜き、差別を許さない心豊かな企業集団を目指す」という基本方針のもと、従業員一人ひとりの人権意識を高める活動に取り組んでいます。

職場・地域・家庭など、日常生活の様々な場面における人権活動が定着していくよう、ビデオ鑑賞やグループ討議を取り入れた人権啓発研修の実施、社内電子掲

示板などへの人権啓発に関する掲示を行っています。

加古川市、企業人権・同和教育協議会（企同協）が人権活動の推進と人権意識の高揚を目指して募集した「キャッチコピー」・「ロゴマーク」のうち社内優秀作品が企同協別府ブロックに推薦提出されました。



人権啓発研修

### (2012年度優秀作品)



ロゴマーク

# 情報セキュリティへの取組み

関西熱化学グループでは、2005年に自社の情報システムに関して「情報システムセキュリティポリシー」、「情報システム管理規則」を制定し、情報システムセキュリティに取り組んできました。さらに2008年には、情報システム以外の情報資産にもセキュリティを拡大し、情報セキュリティの強化を図るようになりました。この運営組織として、「情報セキュリティ部会」を設置し、情報セキュリティの確実な実践に取り組んできましたが、増大する情報セキュリティの重要性、トラブル発生時の影響の大きさに対応すべく、同部会を2011年より関西熱化学社長を統括責任者とする「情報セキュリティ推進会議」へ格上げし、同時に具体的な計画立案や運営を担当する情報セキュリティ担当者会議も設置し、強化を図りました。今後とも社内外の脅威から情報資産の保護、機密情報の外部への漏洩防止および社会的信用の維持・向上を図ってまいります。

## 情報セキュリティ推進会議・推進担当者会議

情報セキュリティの全社的な活動を統括し、関西熱化学グループ全社の情報セキュリティ活動計画等を審議、決定する機関として「情報セキュリティ推進会議」が設置されています。また、各部署の情報セキュリティ担当

者により構成されている「情報セキュリティ推進担当者会議」が、全体の情報セキュリティを維持・向上させるため、具体的な推進計画、実行施策に関する討議・調整、指示事項の徹底、施策進捗管理等を行っています。

## 情報セキュリティ教育

情報セキュリティの意識向上を図るため、2012年2月に情報システムを利用する関西熱化学グループの全構成員を対象にイントラネット（企業内コンピュータネットワーク）を使った「ISMS自己点検」の自主研修を行い、3月に情報セキュリティ事故の脅威やリスクに焦点を当てた「情報セキュリティ講演会」を開催しました。

毎年4月に新入社員を対象に「情報セキュリティ教育」を実施しています。

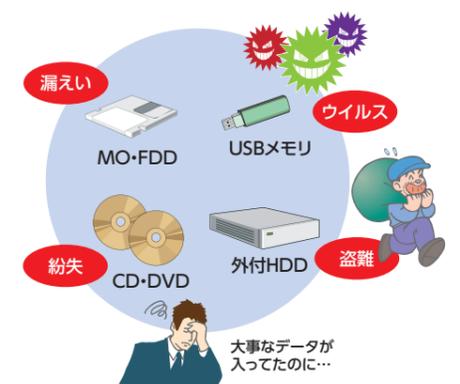
今後とも価値ある情報を安全に活用できるように情報セキュリティの意識向上を目指した教育を行ってまいります。



情報セキュリティ講演会



企業における情報セキュリティ



持ち運び可能なメディアを利用時の危険

# 社会とのコミュニケーション

関西熱化学グループでは、地域の環境を維持するために周辺の清掃活動を行うほか、「モノづくり体験教室」や「体験学習生の支援」など、地域の子供たちに、ものづくりの楽しさや難しさを体験することを通して、身近な科学技術に興味を持ってもらうための活動も行っています。

私たちは、今後もさまざまな場面で地域イベントへの参加や地域ボランティア活動への協賛などを通じ、地域社会との共生を図っていきます。

## ●モノづくり体験教室

小学校高学年を対象にモノづくり体験教室を毎年継続して開催しています。加古川市立別府西小学校では空気の利用して走る「ばこホバーを作って遊ぼう」尼崎市立明城小学校では「活性炭の不思議な力」をテーマに電池の製作などを体験しました。従業員の指導を受けながら、みんなで力を合わせて完成したときは教室内に歓声が上がると、ものづくりの楽しさや難しさを体験しました。



加古川モノづくり教室



尼崎モノづくり教室

## ●体験学習生の支援

1998年から兵庫県下全ての公立中学校の2年生が職業を体験する「トライやるウィーク」が実施されるようになり、毎年継続的に支援を行っています。今回は、浜の宮中学校の生徒4名を加古川工場に受け入れました。工場見学では工場の広さや規模の大きさに感動し、工場内で採取した各種分析業務の説明を受け、実際に採取した気体の臭気を用いた「官能試験」と「濃度測定」を体験しました。



トライやるウィーク

## ●ボランティア清掃

本社・尼崎・中島・加古川の各地区で、周辺地域や通勤道路などの清掃活動を行っています。



ボランティア清掃（尼崎地区）

## ●市民スポーツ振興への賛助

毎年、加古川市では市後援の加古川マラソン、市民レガッタ大会やツーデーマーチが開催されます。

体育部の各班が中心となり、運営を円滑に行うための会場設営、交通整理、レガッタ大会の審判団などとして参加協力しています。



加古川市民レガッタ



ボランティア清掃（加古川地区）

# 2011年度計画と実績・マネジメントシステムへの取り組み

## 2011年度計画と実績

「責任ある自主的な行動により社会からの信頼を受ける会社」を目指し、2002年度から「環境トラブルゼロ、保安事故ゼロ、労働災害ゼロ、RCマネジメントシステム構築」を目標に活動してきました。

2011年度の目標と実績は以下のとおりです。

## 2011年度計画と実績

項目		目標	2011年度実績	掲載ページ
環境保全	環境管理	環境事故・重大トラブル	ゼロ	—
	CO2削減	現状維持	2010年度比5%増	9
	有害物質排出抑制	PRTR大気排出量削減 2007年度基準値7t/yを、2011年度に30%削減	2007年度比34%減 (2010年度より継続達成)	9
	廃棄物削減・リサイクル	リサイクル率99%	99.6%	9
安全衛生防災	防災	保安事故ゼロ	ゼロ	11
		設備管理の強化 防災訓練の強化	設備重大トラブルゼロ 総合防災訓練等緊急時対応訓練実施	— 11
	労働安全衛生	休業度数率ゼロ	2.56	11
		安全衛生活動の活性化	職場危険作業の抽出と改善実施 体験学習、安全基本教育実施 RC大会11月開催	— 11 12
品質・製品安全	品質	重大クレームゼロ	ゼロ	—
	製品安全	生産重大トラブルゼロ 2018年までにGPS安全性要約書完成	生産重大トラブル8件 GPS、JIPS活動着手	— 12
共通	コンプライアンス	コンプライアンスの意識向上	意識調査の結果コンプライアンス意識向上を確認	13
	社会とのコミュニケーション	地域ボランティア活動	地域清掃、地域行事への参画	15
	RCのグループ会社への展開	グループマスタープランに沿ったRC活動の実施	グループ会社毎の個別活動の展開	17

## マネジメントシステムへの取り組み

関西熱化学グループでは、PDCA（Plan-計画、Do-実施、Check-確認、Act-改善）を組み込んだ環境マネジメントシステム（ISO14001、EA21）、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）、品質マネジメントシステム（ISO9001）を基本とした仕組みを積極的に取り入れています。

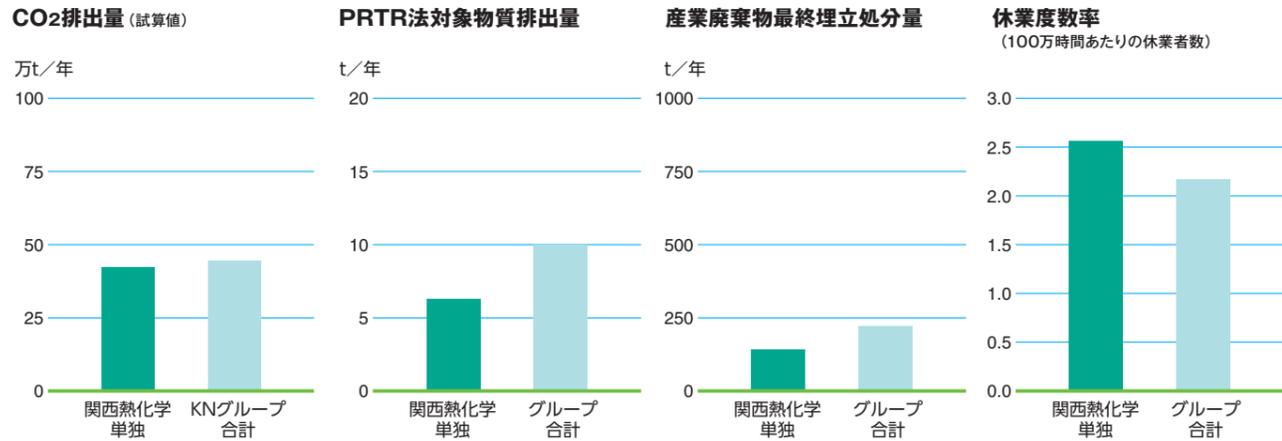
## 関西熱化学グループ マネジメントシステム規格に基づく認証取得一覧表

規格	認証場所
ISO14001	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエバテック ・尼崎事業所(精洗部、尼崎分析センター、環境安全・品質保証部) ・加古川事業所(管理部、製造部、加古川分析センター、品質保証部)
	大阪化成(株)
エコアクション21 (EA21)	関西熱化学(株) 本社、研究開発センター (株)MCエバテック ・管理本部、炭素材・洗浄本部(活性炭事業部、炭素材事業部)、分析・サービス本部(分析事業部除く) ・尼崎事業所(アクア澱粉製造部、管理部) ・加古川事業所(管理部)
	大阪化成(株)
OHSAS18001	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエバテック ・尼崎事業所(精洗部、尼崎分析センター、環境安全・品質保証部) ・加古川事業所(管理部、製造部、加古川分析センター、品質保証部)
	大阪化成(株)
ISO9001	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエバテック ・炭素材・洗浄本部(活性炭事業部、炭素材事業部、精密洗浄事業部) ・分析・サービス本部(分析事業部、アクアアラ六甲事業部、ソフトウェア事業部) ・尼崎事業所(精洗部、尼崎分析センター、アクア澱粉製造部(アクア事業)、環境安全・品質保証部) ・加古川事業所(製造部、加古川分析センター、品質保証部)
	大阪化成(株)
	尼崎ユーティリティサービス(株)
	大阪化成(株)

# グループ会社のRC活動への取組み

## グループの主要な環境・安全パフォーマンス指標比較

グループ会社と関西熱化学の主要な2011年度環境・安全パフォーマンス指標を示します。  
(図表の中のグループ合計には関西熱化学を含みます)



## グループ会社の環境関連技術とRC関連情報

### ●株式会社MCエバテック

#### 環境関連技術

##### 〔炭素材事業〕

- キャパシタ用高機能活性炭製造
- 使用済活性炭の再生利用(活性炭再生技術)

##### 〔精密洗浄事業〕

- 半導体・フラットパネルディスプレイ関連装置の精密洗浄(再生利用技術)

##### 〔分析事業〕

- 環境分析および作業環境測定(環境分析技術)

##### 〔総合サービス事業〕

- 安全・安心な水の製造販売(飲料水製造技術)
- 安全・安心な澱粉詰め替え(衛生管理技術)
- プラント・工場の監視、制御システム開発(ソフトウェア開発技術)

#### RC関連情報

##### 〔加古川事業所(製造部)〕

- 全員参加で各種災害事例を用い、発生原因にフォーカスした4RKY方式による討議

- 運転条件変更等によるCO2排出原単位対前年比1%削減
- 製造プロセス見直しおよび廃活性炭のセメント原料リサイクルによる埋立処分量削減

##### 〔尼崎事業所(精洗部)〕

- 環境、品質、労働安全の統合マネジメントシステムを運用中

##### 〔尼崎事業所(尼崎分析センター)、加古川事業所(加古川分析センター)〕

- 環境、品質、労働安全の3つのマネジメントシステムを統合運用中
- ISO17025(試験所認定制度)を運用中
- Upr活動

##### 〔尼崎事業所(管理部、アクア澱粉製造部)〕

- 設備の省電力化、操業管理強化等によるCO2排出原単位対前年比1%削減
- 廃棄物の有効活用促進により対前年比9%削減達成、2012年度廃棄物ゼロに向けて活動中
- 全員参加のCKK(小集団)活動実施

##### 〔分析・サービス本部(ソフトウェア事業部)〕

- NEDO事業としてコークス関連の省エネ技術販売

### ●大阪化成株式会社

#### 環境関連技術

- 薬用ハンドソープ用途の殺菌剤の製造(抗菌剤製造技術)
- 専用抗菌剤の製造(抗菌剤製造技術)
- 動物忌避剤の製造(忌避剤製造技術)

#### RC関連情報

- CO2排出量削減のためボイラー燃料を灯油からLNGに転換完了
- トルエン回収設備運転改善により回収目標達成
- 海外向け化学物質管理として欧州化学品管理「REACH」等、対応中

### ●尼崎ユーティリティサービス株式会社

#### 環境関連技術

- 高効率ガスタービンコージェネレーション発電(発電設備運転技術)
- 低圧蒸気活用による「スチームスター」による発電(発電設備運転技術)

#### RC関連情報

- 新型ガスタービン(GT)導入及びGT高出力運転による原単位向上等により、対前年比1,680T/年のCO2排出量を削減
- 1993年創業以来の連続無災害継続中
- KIC活動

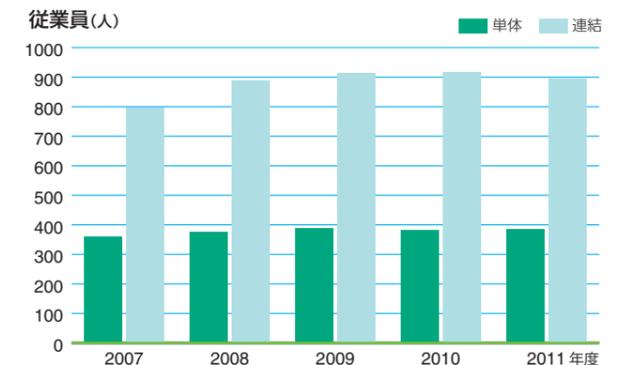
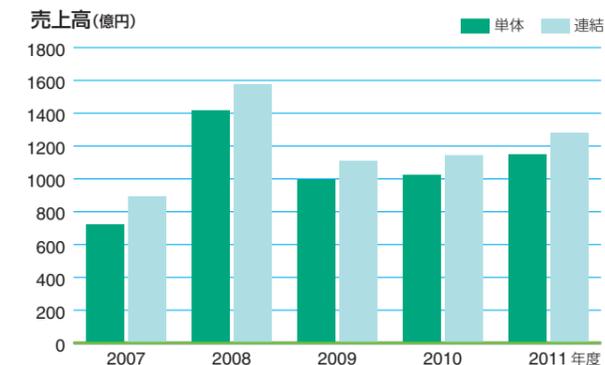
# 関西熱化学グループ会社概要

- 社名 関西熱化学株式会社  
KANSAI COKE AND CHEMICALS CO.,LTD.
- 本社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号  
TEL 06-4300-5300(代表)  
ホームページ <http://www.tkcc.co.jp>
- 代表者 取締役社長 朝比 栄一(あさひ えいいち)
- 設立 1956年(昭和31年)8月1日
- 資本金 60億円
- 事業内容 ●製鉄用コークスの製造販売  
●ガス、コールタールなどの化成品の製造販売 ほか
- 事業所 ●加古川工場/兵庫県加古川市金沢町7番地  
●尼崎事業所、研究開発センター/兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地

- 社名 株式会社MCエバテック
- 本社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号  
TEL 06-4300-5442(代表)
- 代表者 取締役社長 朝比 栄一(あさひ えいいち)
- 設立 1976年
- 資本金 2億8000万円
- 事業内容 炭素材事業、精密洗浄事業、分析事業、総合サービス事業(不動産業、飲食業、ソフトウェア開発、飲料水製造販売、澱粉詰め替え)

- 社名 大阪化成株式会社
- 本社 大阪府大阪市西淀川区中島2丁目6番地11号  
TEL 06-6474-3621(代表)
- 代表者 取締役社長 吉田 康夫(よしだ やすお)
- 設立 1969年
- 資本金 6000万円
- 事業内容 炭素製品事業、生活環境製品事業、特薬事業、生物検査・評価試験受託業務

- 社名 尼崎ユーティリティサービス株式会社
- 本社 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地  
TEL 06-6416-0164(代表)
- 代表者 取締役社長 佐藤 研一(さとう けんいち)
- 設立 1993年
- 資本金 1億円
- 事業内容 電気・蒸気供給事業



# Responsible Care 2012

## レスポンシブル・ケア報告書

お問い合わせ先 関西熱化学株式会社 RC推進会議事務局 TEL : 06-4300-5366 (CSR推進部) FAX : 06-6491-9681



この印刷物は環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」、および植物油インキを使用しています。